

平成30年度 放射線健康相談内容集計データ

1. 調査期間

平成30年4月～平成31年3月

2. 相談件数（のべ件数）

区分	件数	備考
① 相談窓口	14件	※電話での問い合わせ含む
② 戸別訪問	2,398件	
③ 電話連絡	233件	
④ 電話受付	1件	
合計	2,646件	

3. 避難種別内訳（のべ件数）

区分	件数	備考
① 自宅	2,646件	
合計	2,646件	

4. 相談内容（のべ件数）

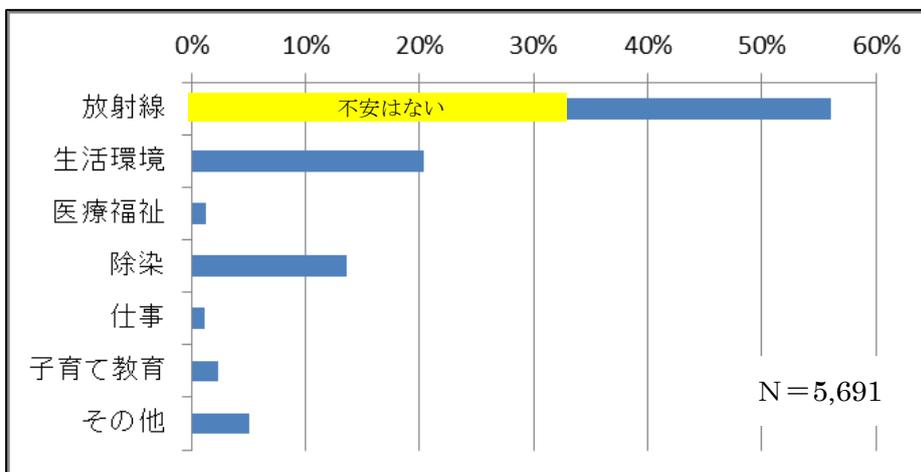
項目	放射線	生活環境	医療福祉	除染	仕事	子育て教育	その他	合計
件数	3,187件	1,159件	777件	73件	135件	68件	292件	5,691件
割合	56%	20%	14%	1%	2%	1%	5%	100.0%

※1件につき複数相談があるため相談件数とは合わない。

※なお、避難種別については自宅居住者のみであるため、次ページ以降の集計グラフでは割愛する。

5-1. 相談内容の解析

5-1-① 全体の解析

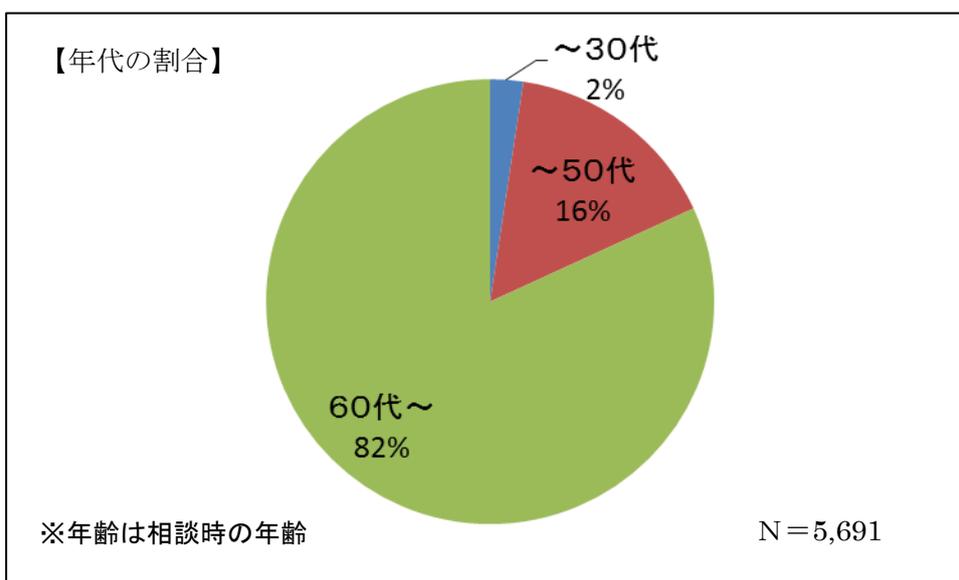


1) 放射線に対する相談が一番多く、3,187件で全体の約56%であった。

※3,187件中1,879件は「不安はない」という回答。

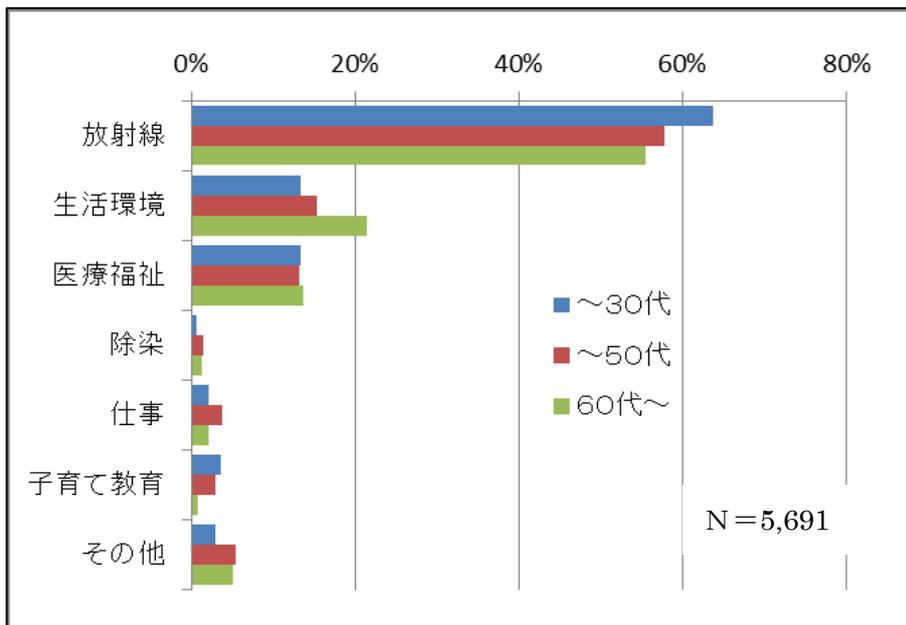
2) 続いて、生活環境の困りごとが1,159件で全体の約20%であった。

5-1-② 年代による解析

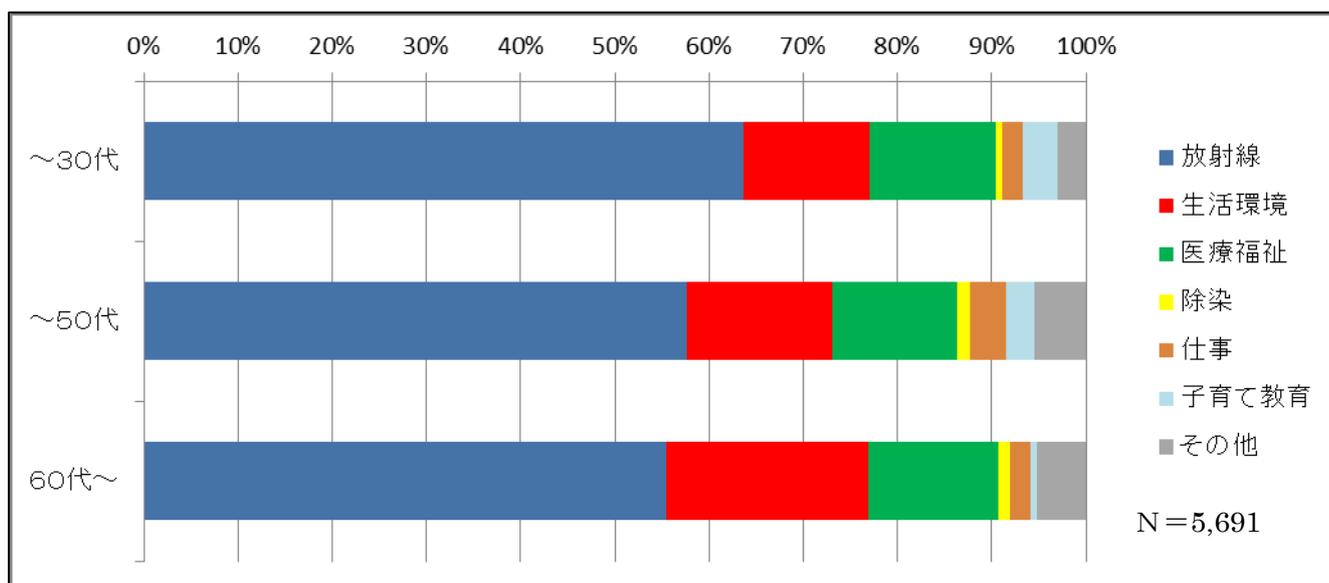


1) 相談内容における年代の割合を見てみると、60代以上が一番多く、全体の約82%であった。

【年代毎の相談件数】



【年代毎の相談内容の割合】

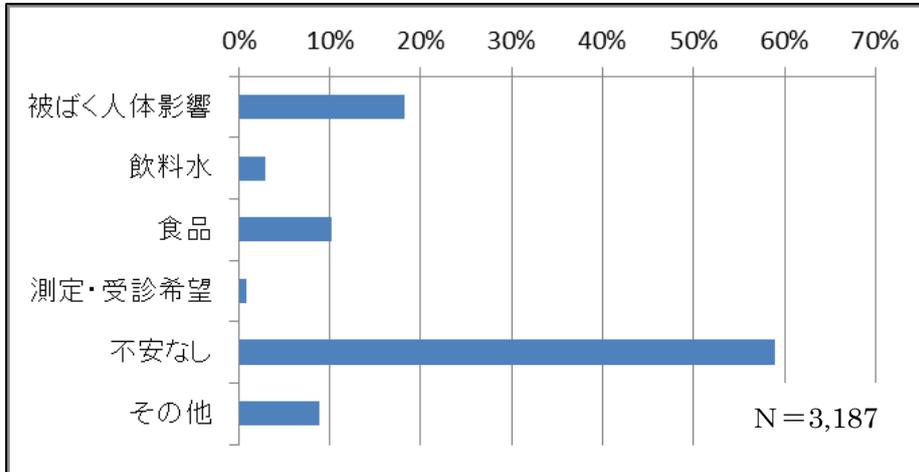


- 1) 放射線に関する相談の割合は30代までが一番多かった。
- 2) ほかの年代と比べて、30代までは子育て教育に関する相談が多かった。
- 3) ほかの年代と比較して、60代以上は生活環境に関する相談が多かった。

5-2. 放射線の相談に関する解析

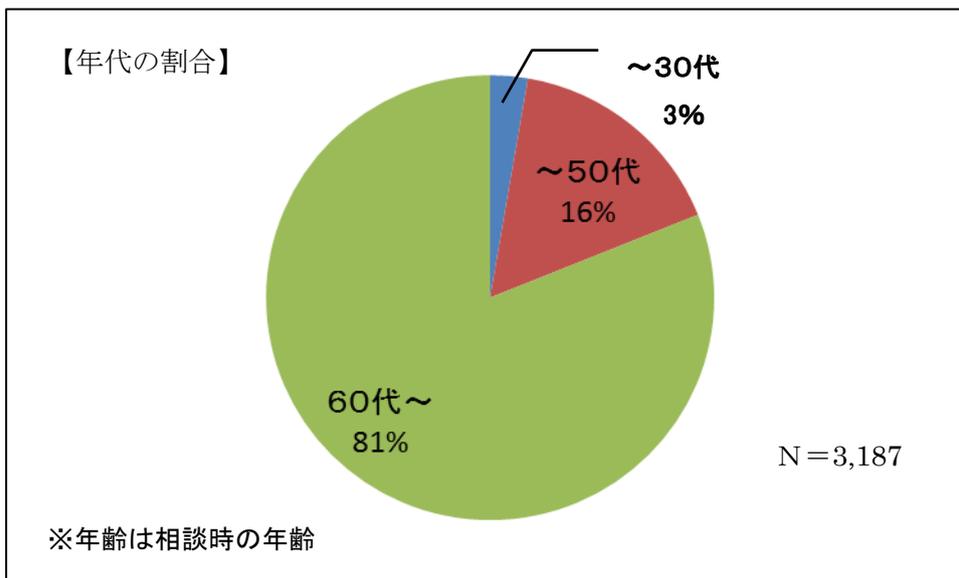
放射線に関する相談内容を細分化し解析した。

5-2-① 全体の解析（放射線）



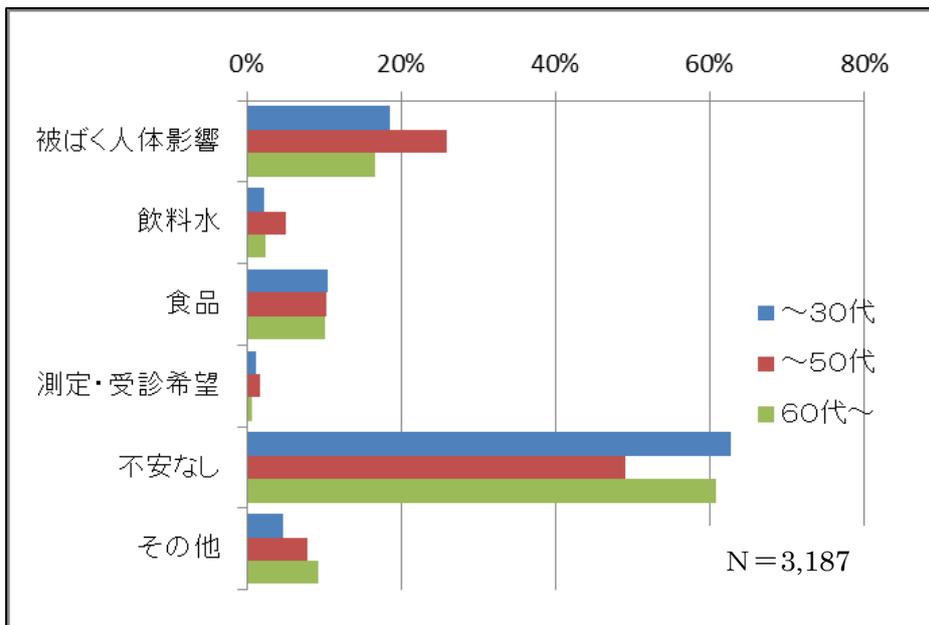
1) 被ばくによる人体影響の不安より、不安なしの割合の方が多い結果となった。

5-2-② 年代による解析（放射線）

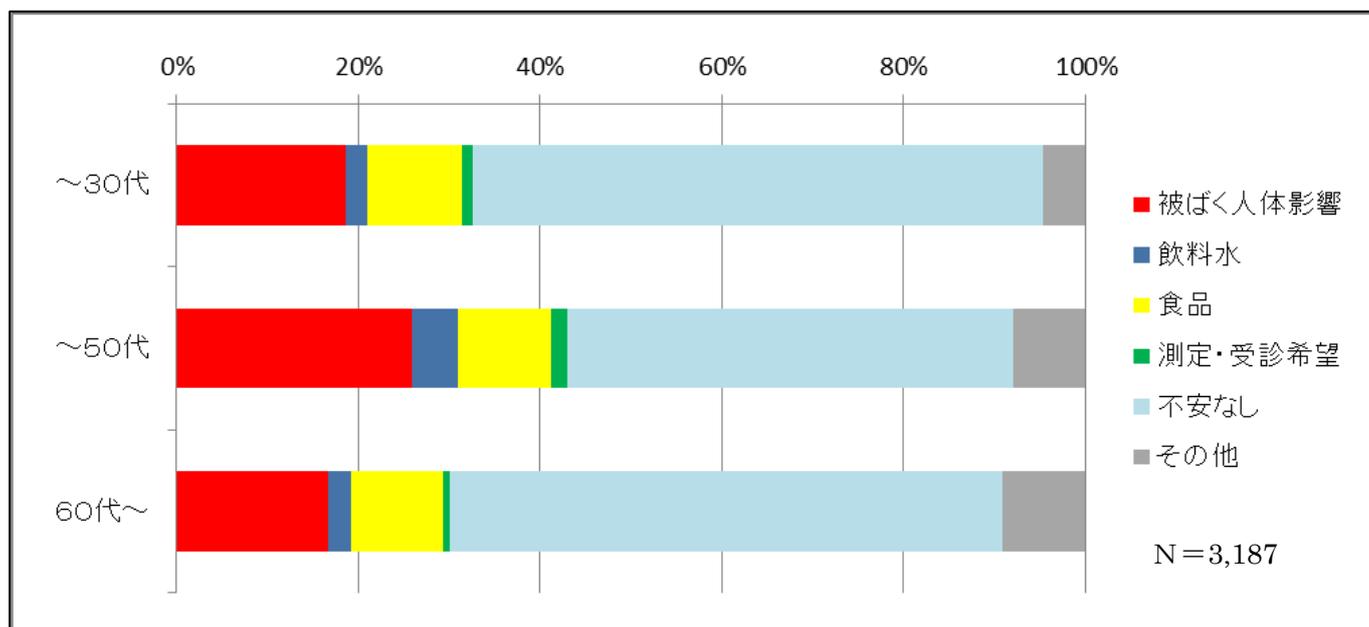


1) 放射線に関する相談内容における年代の割合を見てみると、60代以上が一番多く、全体の約81%を占めている。

【年代毎の相談件数】



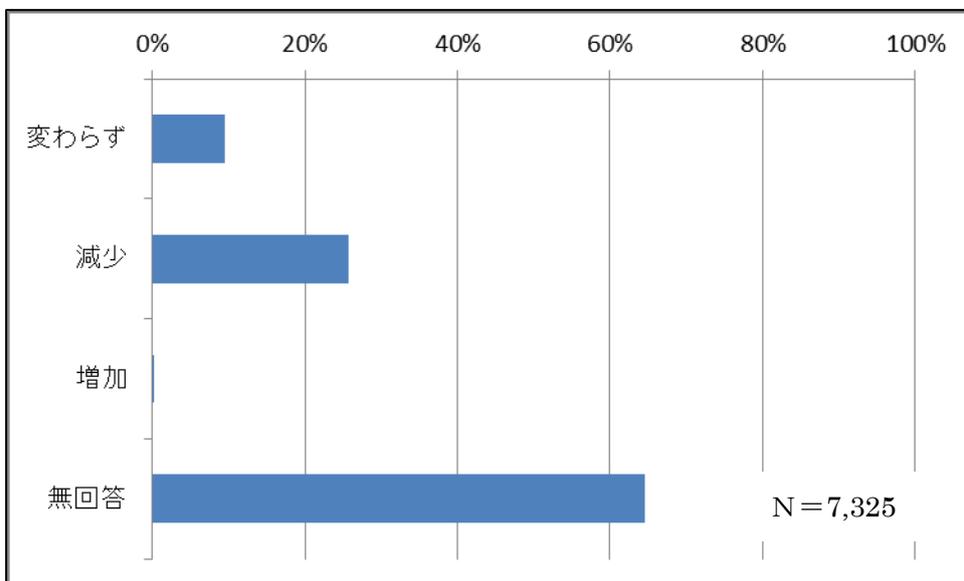
【年代毎の相談内容の割合】



- 1) ほかの年代に比べて、40～50代で被ばくによる人体影響に関する相談が多かった。

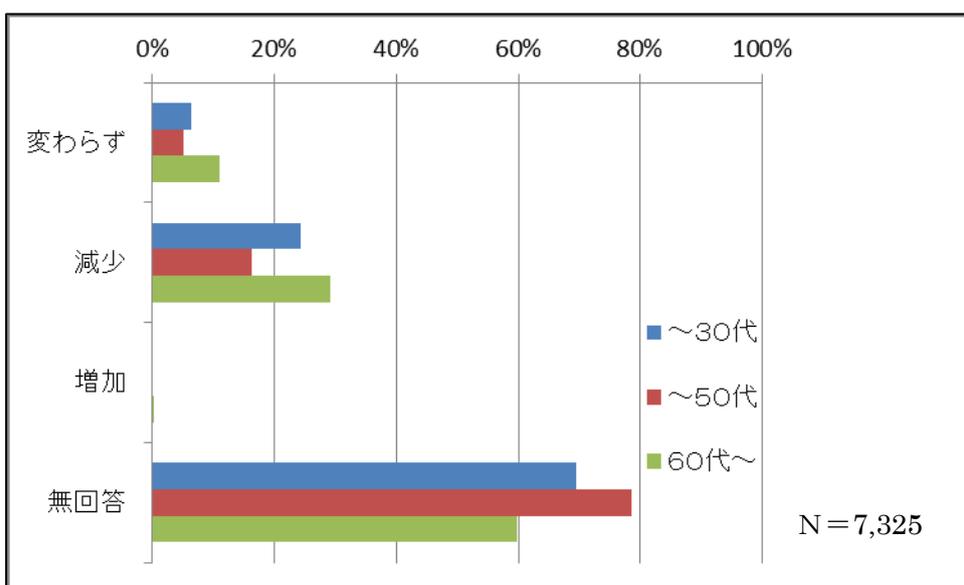
5-3. 放射線に対する不安度の増減

5-3-① 全体の解析（不安度）



1) 減少したとの回答が1,889件で全体の約26%と有効回答の中で一番多く、次いで震災当時と変わらないとする回答が695件で全体の約9%。増加したとの回答はわずか6件であった。

5-3-② 年代による解析（不安度）

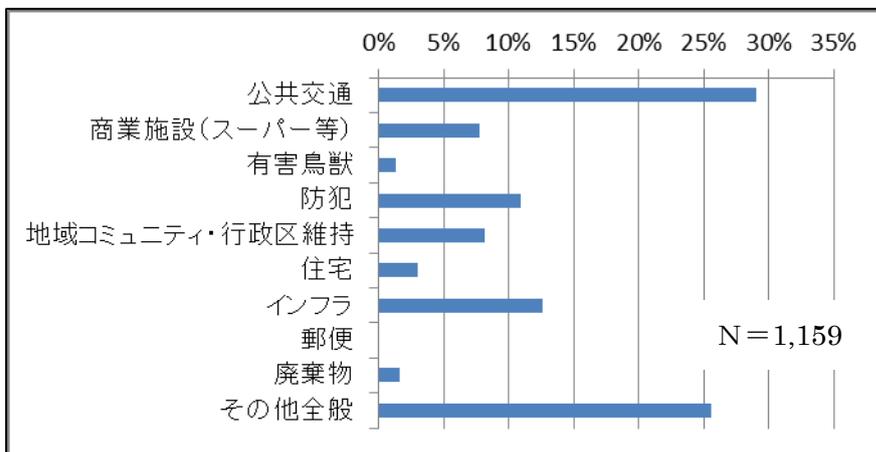


1) 日中訪問の都合上、30代以下の回答数は少ないものの、各年代ともに減少したとの回答が一番多い結果となった（無回答除く）。

5-4. 生活環境の相談に対する解析

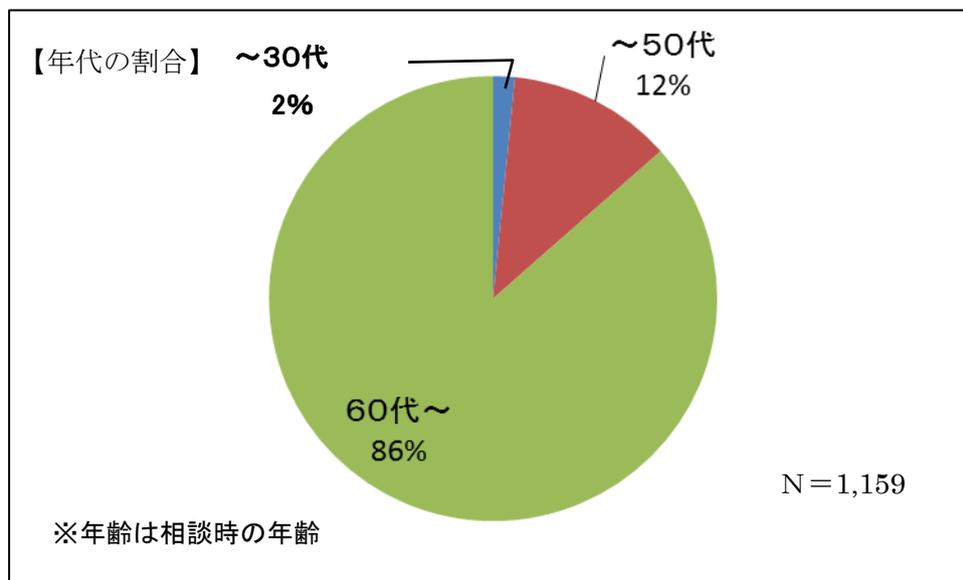
生活環境に関する相談内容を細分化し解析した。

5-4-① 全体の解析（生活環境）



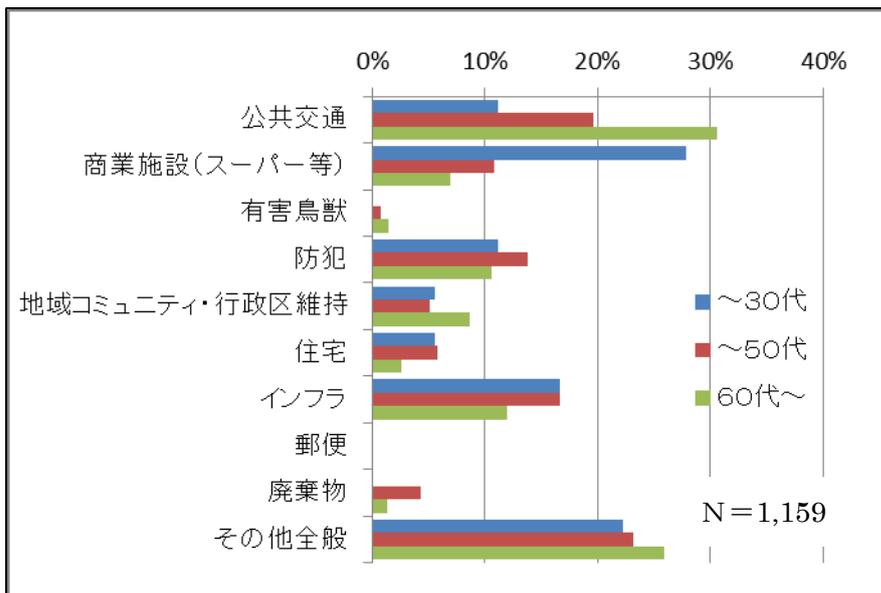
1) 公共交通に関する相談が336件で、全体の約29%であった。次いでインフラに関する相談が146件で約13%であった。

5-4-② 年代による解析（生活環境）

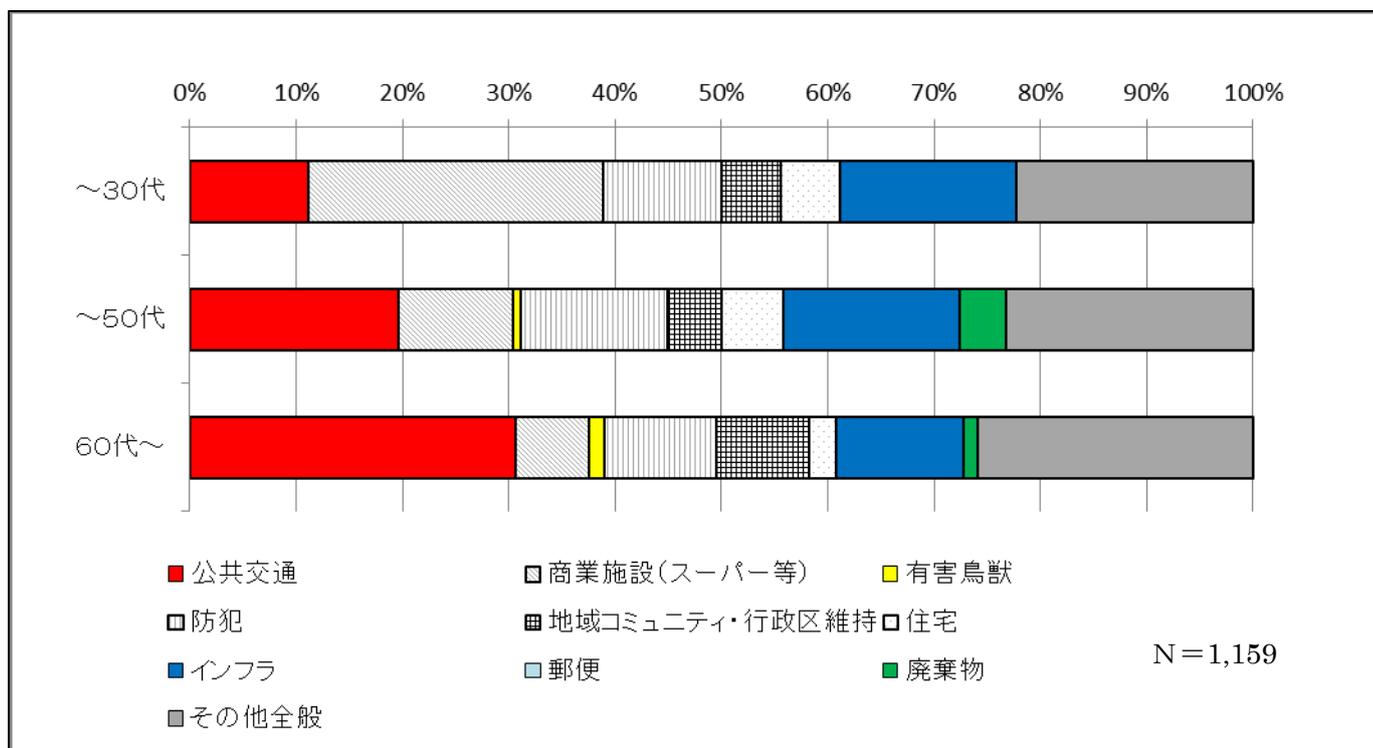


1) 生活環境に関する相談内容における年代の割合をしてみると、60代以上が一番多く、全体の約86%を占めていた。

【年代毎の相談件数】



【年代毎の相談内容の割合】



- 1) 公共交通に関する相談は、60代以上からの割合が多かった。
- 2) 商業施設の再開・充実に関する相談は、年代が上がるにつれて減少傾向。
- 3) 地域コミュニティ・行政区維持に関する相談は、60代以上の割合が多い。